修　了　論　文　テ　ー　マ

ーサブテーマー （あれば）

京都教育大学大学院　連合教職実践研究科

教職実践専攻　○○力高度化コース

学籍番号　氏　　名

修了論文テーマ（MSゴシック・Times New Roman 14ポイント）

ーサブテーマー（あれば）

(1行あける)

氏名（MSゴシック12ポイント）

○○力高度化コース

(1行あける)

|  |
| --- |
| 要約：（書式：ぶら下げ３字）このファイルは京都教育大学大学院連合教職実践研究科の修了論文のWord版テンプレートファイルである。このファイル自体が執筆要領を兼ねている。このファイルの書式をそのまま使用して論文を作成すること。このファイルは京都教育大学大学院連合教職実践研究科の修了論文のWord版テンプレートファイルである。このファイル自体が執筆要領を兼ねている。このファイルの書式をそのまま使用して論文を作成すること。このファイルは京都教育大学大学院連合教職実践研究科の修了論文のWord版テンプレートファイルである。このファイル自体が執筆要領を兼ねている。このファイルの書式をそのまま使用して論文を作成すること。このファイルは京都教育大学大学院連合教職実践研究科の修了論文のWord版テンプレートファイルである。このファイル自体が執筆要領を兼ねている。このファイルの書式をそのまま使用して論文を作成すること。（400字以内）  キーワード：教育、修了論文、大学院（５〜６語） |

(１行あける)

１．はじめに（MSゴシック・Times New Roman 12ポイント）

このファイルは京都教育大学大学院連合教職実践研究科の修了論文のWord版テンプレートである。執筆要領を兼ねているのでファイルの書式をそのまま使用して論文を作成すること。

2．研究テーマについて

　２人の担任（10年以上の現職経験を有する現職教員院生は１人）教員と十分相談して、院生自身の興味・関心に応じた学校教育に関するテーマを設定してほしい。

3．原稿の書き方

3.1　原稿の形式について（MSゴシック・Times New Roman 10.5ポイント）

原稿は40文字×30行で、A4判10頁または12頁とする。（11頁は不可、扉は含めない）

本文のフォントは、MS明朝とし、文字サイズは10.5ポイントとする。

本文の句点は「。」読点は「、」を用いる。余白は、上下30mm、左右25mmとする。（必要な図表は本文に挿入する）

3.2　図や表について

表の題目は、表の上部中央にMSゴシック９ポイントで挿入する

表１　表の題目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

　図・写真の題目・説明は、図・写真の下部中央にMSゴシック９ポイントで挿入する。図表は、画像として他の画面から貼り付けるより、Word上で作成する方が鮮明である。写真は［レイアウトの詳細設定］［文字列の折り返し｝で［四角］に指定する。写真をクリックし、［書式・図ツール］→［図の圧縮］で｛解像度｝を［電子メール用96ppi］に設定する。写真は1頁に4枚を限度とする。



図１　京都教育大学マスコット

3.3　引用文献について

　引用文献は、修了論文の末尾に著者苗字のアルファベット順で一括して表記する。

　本文中での文献の引用は、次のようにすること（若干の変更可、ただし論文の中で書き方を統一すること）。

Guilford (1959)は………

田中（2008）は………

………といっている (Guilford 1959)

………といっている（田中 2008）

なお、著者人数によって、下記のような表記とする。

単著の場合、(Guilford 1959)および(田中 2008)

二名の著者の場合、(山田・鈴木 2008)および(YAMADA and SUZUKI 2008)

三名以上の著者の場合、(山田ほか 2008)および(YAMADA et al. 2008)

脚注を使う場合は、文末脚注に統一すること。脚注も10.5ポイントを使用[[1]](#endnote-1)。

4．論文の内容について

4.1　章立てのアイディア

　基本の形は以下のようになるが、各自工夫して書くこととする。

|  |
| --- |
| １．はじめに（研究の背景）  ２．研究の目的  ３．研究の方法  ４．研究の結果  ５．考察  ６．研究の成果と今後の課題  引用文献 |

4.2　個人情報について

修了論文作成において、担任による学級経営の実践事例や子どもとの関わりの事例の取り扱い等については、個人情報保護の観点から当該校の担当者と十分に打ち合わせを行い、事前の了解を得るとともに、個人名・学校名等が特定されることのないように、十分に注意する。

5．提出について

原稿は要旨とともに、各年度１月上旬17時（厳守：年度によって締切日が変わるので、要確認）までに、連合事務室に提出すること。

報告審査会後、各指導担当教員より最終的な指導、訂正指示を行う。修了論文の最終版を２月中旬17時（厳守：年度によって締切日が変わるので、要確認）までに、連合事務室に紙媒体で２部、各指導担当教員に紙媒体で１部提出すること（加えて、各指導担当教員にはメールに添付して提出すること）。**提出の際には、ページ番号を削除しておくこと。**

提出に関しては、最終的には、その年度のハンドブックの記述に従うこと。

（2019年12月15日更新）

引用文献・参考文献の記述例

引用文献の記述形式は、以下のとおりとする

* 片山紀子（2008）『アメリカ合衆国における学校体罰の研究』風間書房。
* 徳永俊太（2007）「戦後イタリアにおける歴史教育理論の変遷—歴史学と歴史教育の関係に着目して—」『教育方法学研究』第33巻，pp.85-96。
* Dewey, J. (1933) *How we think*.: *A restatement of the relation of reflective thinking to the educative process.* Boston: Houghton Miffin Company.
* Loughran, J. J. (2002) Effective reflective practice: In search of meaning in learning about teaching. *Journal of Teacher Education*, 53(1), pp.33-43.

1. 脚注は、1 2 3で表す。 [↑](#endnote-ref-1)